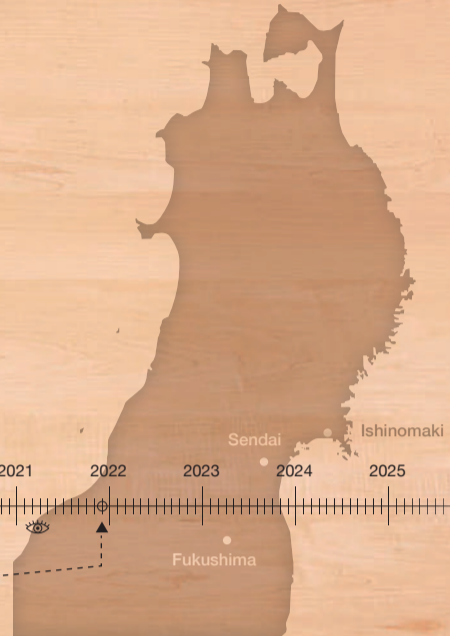




仙台舞台芸術フォーラム
2011→2021 東北
SENDAI PERFORMING ARTS FORUM
2011→2021 TOHOKU

仙台 舞台芸術フォーラム 2011→2021 東北



2011.3 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026

2021年

1月30日(土)・31日(日)

演劇『キル兄にゃとU子さん』
(作・演出：大信ペリカン)
シア・トリエ



2月3日(水)

トーク『2021年新作公演について』
柴幸男



2月6日(土)・7日(日)

演劇『咆哮<私たちはもう泣かない>』
(作：文三/演出：三國裕子)
劇団うたたね.<ドット>



2月26日(金)～3月7日(日)

演劇『方丈の海』
(作：石川裕人/演出：渡部ギユウ)
方丈の海 2021 プロジェクト



「仙台舞台芸術フォーラム」について

昨年度から3か年の計画で継続中の「仙台舞台芸術フォーラム」。今年度は9月に実施した屋根裏ハイツによる公演&トークに続き、3つの作品を上演します。

2011年震災直後の福島で創作され、新聞の引用や断片的なセリフから、当時の人々の混乱・不安といった想いが浮かび上がる、シア・トリエ『キル兄にゃとU子さん』。津波によって被害を受けた人々の営みが描かれる、うたたね.<ドット>『咆哮<私たちはもう泣かない>』は、震災から8年が経過した石巻で「ようやく震災を題材とした演劇を発表することができた」という作品です。そして2012年に発表された故・石川裕人の遺作『方丈の海』は、震災から10年後の世界が描かれた作品です。作品の舞台となった2021年に再演出される今回の上演では、震災当時の時間と現在の時間が交差することでしょう。

また、仙台ゆかりの劇作家・演出家の柴幸男が、トークイベントで現在創作中の新作について語ります。2021年12月に行われる予定のこの新作公演では、2011年からの時間、そして現在から未来に向かう時間が描かれる予定です。

●「仙台舞台芸術フォーラム」これまでの上演作品

- ・三角フラスコ『はなして』(作・演出：生田恵/2020年2月)
- ・劇団三か年計画&演劇ユニット石川組『徒然だ』(作・演出：なかじょうのぶ/2020年2月)
- ・弘前劇場『壊れる水』(演劇『祝/言』より)(作・演出：長谷川孝治/2020年2月)
- ・屋根裏ハイツ『とおくはちかい(reprise)』『ここは出口ではない』(作・演出：中村大地/2020年9月)

●アドバイザーボード

- ・宮田慶子(演出家・新国立劇場演劇研究所所長/東京都)
- ・萩原宏紀(いわき芸術文化交流館アリオス 企画制作課/福島県)
- ・くらもちひろゆき(日本劇作家協会 東北支部長/岩手県)
- ・矢口龍汰(石巻劇場芸術協会 代表/宮城県)
- ・武田篤彦(「宮城県復興応援ブログ ココロプレス」元編集デスク/宮城県) ※敬称略・順不同



大信ペリカン

1975年兵庫県生まれ。大学在学中より演劇活動を始め。96年満塁鳥王一座(現：シア・トリエ)を旗揚げ。以来、ほぼ全ての作品の作・演出を手がける。シア・トリエの活動以外にも、劇団仙台2007『ミチユキ→キサラギ』(作：中澤日菜子)演出や、SENDAI座☆プロジェクトでの作演出など外部作品多数。また、いわき芸術文化交流館アリオス主催のバックステージツアー「たんけんアリオス」構成演出や、戯曲ワークショップ「いわきアリオス演劇部」講師・演出など、アウトリーチ活動にも積極的に関わる。福島県の演劇人有志で運営する「アトリエ プリコラージュ 福島」にも携わる。



柴幸男

撮影：源賢津己

劇作家、演出家、ままごと主宰。急な坂スタジオレジデント・アーティスト。多摩美術大学専任講師。劇場から船上まで、学芸会から工場見学まで、場所や形態を問わない演劇活動を全国各地で行う。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。近年は小豆島や横浜、台湾に長期滞在し地域に根ざした演劇を継続的に上演。14年より『戯曲公開プロジェクト』を開始、戯曲を無料公開し多くの上演機会を設けている。



三國裕子

石巻市出身。女優・演出家。1970年東京の劇団で活動開始。74年つかこうへい『熱海殺人事件』の初版舞台を踏む。93年に帰郷し、ひとり芝居企画「うたたね」を立ち上げ。演劇文化を地元に戻り込もうと市民ミュージカルなど多数の舞台を手掛ける。2018年石巻市芸術文化功労章を受賞。19年いしのみき演劇祭では震災を題材に描いた『咆哮<私たちはもう泣かない>』を初演。タブーに触れると思いつつも、伝える事を使命とし舞台に立ち続ける。



石川裕人

(1953年9月21日 - 2012年10月11日) 山形県東根市出身。劇作家・演出家・シナリオライター。高校時代から役者・劇作・演出・作曲等を手がけ、2010年劇作100本を達成。仙台でアングラ演劇の囁きといわれ多くの演劇人を輩出した「十月劇場」を経て、1995年 TheatreGroup「OCT/PASS」結成。常に地域に根ざした地力の芝居を発信し、仙台・宮城の演劇シーンを牽引してきた。日本劇作家協会会員。91年度宮城県芸術選奨新人賞、96年度宮城県芸術選奨受賞。



渡部ギユウ

1964年山形県庄内町出身。85年～93年十月劇場に参加。2007年～20年SENDAI座☆プロジェクト主宰。役者・演出者、企画制作、ナレーターとして活躍中。近年仙台オペラ協会『ドン・ジョバンニ』『フィガロの結婚』演出。20年9月(一社)東北系びす設立。「仙臺まちなかシアター」「1-piece theatre」を継続中。演出代表作として、『ゴドーを待ちながら』、『マシーンって何だ?』(ハムレットマシーンより)、『タルタロスの足湯～みちのく温泉郷物語～』。児童劇団AZ9ジュニアアクターズ養成講師。宮城県芸術選奨受賞。日本演出者協会会員。YONEZAWA GYU OFFICE 代表。

会場：せんだい演劇工房 IO-BOX box-1

主催：公益財団法人仙台市市民文化事業団・仙台市

「仙台防災未来フォーラム 2021」パネル展示

震災関連の舞台芸術作品や、令和3年度内に発行を予定している舞台芸術関係者インタビュー等をまとめた記録誌の経過を紹介。

日程：2021年3月7日(日) 会場：仙台国際センター 展示棟

【お問い合わせ】

せんだい演劇工房 IO-BOX
TEL：022-782-7510
FAX：022-235-8610
E-Mail：contact@gekito.jp



【ご来場のお客様へのお願い】

- ・ご来場の際はマスクを着用し、咳エチケット・手洗いや手指消毒の徹底をお願いします。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、必要が生じた場合に氏名等情報を保健所等に提出する場合があります。
 - ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、公演の日程や内容が変更となる場合があります。
- ※せんだい演劇工房 IO-BOX HP の「新型コロナウイルスの感染拡大防止のためのお知らせとお願い」も併せてご覧ください。



令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
(仙台舞台芸術プロジェクト)